

# 腹部脂肪量から腎盂腎炎の予後を予測する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2024年2月28日～2025年12月31日

## 〔研究課題〕

腎盂腎炎における腹部脂肪量による予後予測能の解析

## 〔研究目的〕

腎盂腎炎は子供から大人までかかる代表的な感染症の一つで、高齢者では重症で亡くなる方もいます。腎盂腎炎の重症度を評価したり予後を予測したりする因子は定まっていません。感染症の予後予測は、多くはお体の所見(バイタルサイン)や血液検査などを用いたスコアなどが使われています。また私達は COVID-19 の研究で、CT で調べた腹部の内臓脂肪量が病気の予後との関連があるのを見出しました。これまで腎盂腎炎で腹部の内臓脂肪量と重症度や予後と関連があるか報告されていませんが、その関連性があるかを調べます。

## 〔研究意義〕

腹部脂肪量と腎盂腎炎の予後の関連性が明らかになれば、腎盂腎炎の患者様に対して CT を行うことで、病気の診断だけでなく、病気の重さの予測も可能となり、適切な治療を受けられる可能性があります。また他のお体の所見や検査値と組み合わせるとより確率が高い予測のスコアを作ることができる可能性があります。

## 〔対象・研究方法〕

2010年7月から2020年3月総合内科に腎盂腎炎の診断で入院した患者を対象とします。血液検査、尿検査、細菌検査、治療内容、入院後の転帰(軽快したかどうか)をカルテから調べます。入院時に撮影した CT 画像を用いて、画像処理ソフトにより腹部の脂肪面積を測定し、調べた項目や腹部脂肪面積と転帰との関連性を調べます。関連する項目が複数ある場合は、より転帰を予測する項目の組み合わせを調べます。

## 〔研究機関名〕

帝京大学医学部内科学講座

## 〔個人情報の取り扱い〕

研究の公表の段階で個人が特定できる情報は公開しません。

研究終了後は倫理委員会事務局に提出し、保管した情報は帝京大学臨床研究センター(Teikyo Academic Research Center)にて10年保管の後に廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 問 い 合 わ せ 先

研究責任者：北沢貴利 病院教授

研究分担者：若林義賢 講師、中山津 大学院生

所属：医学部内科学講座

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211 (代表) [内線 7645 ]